

<div></div>
<p>AT-SP767XTV</p>

<p>取扱説明書 / デジタルワイヤレスステレオスピーカーシステム</p>
<p>audio-technica</p>

お買い上げありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

■ 同梱品を確認する

本製品をご使用になる前に、下記の同梱品がすべてそろっていることを確認してください。万一、同梱品に不足や損傷がある場合は、お買い上げの販売店または当社お客様相談窓口までご連絡ください。

・スピーカー (AT-SP767XR)	・送信機 (AT767XTX)
・角形光デジタルケーブル (1.5m / 角形光プラグ)	・オーディオケーブル (1.5m / ϕ3.5mm ステレオミニプラグ)
	・取扱説明書 (本書) ・保証書 ・かんたんマニュアル
・ACアダプター (AD-SA0610AA)	

■ 安全上の注意

本製品は安全性に十分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。
	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

■ スピーカー／送信機について

	警告
<ul style="list-style-type: none">●本製品を医療機器の近くで使用しない 電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与える恐れがあります。医療機関の屋内では使用しないでください。 ●自動ドアや火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない 電波が影響をおよぼし、誤動作による事故の原因となる恐れがあります。 ●指定のACアダプター以外には使用しない 事故や火災の原因になります。 ●異常に気付いたら使用しない 異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあつたら、すぐに使用を中止して、お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。	<ul style="list-style-type: none">●分解や改造はしない 感電、故障や火災の原因になります。 ●強い衝撃を与えない 感電、故障や火災の原因になります。 ●濡れた手で触れない 感電やけがの原因になります。 ●水をかけない 感電、故障や火災の原因になります。 ●本製品に異物 (燃えやすい物、金属、液体など) を入れない 感電、故障や火災の原因になります。 ●布などで覆わない 過熱による火災やけがの原因になります。 ●同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない 事故や火災の原因になります。

	注意
<ul style="list-style-type: none">●不安定な場所に設置しない 転倒などによりけがや故障の原因になります。 ●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない 故障、不具合の原因になります。	<ul style="list-style-type: none">●火気に近付けない 変形、故障の原因になります。 ●ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しない 変形、故障の原因になります。

■ ACアダプターについて

	警告
<ul style="list-style-type: none">●AC100V以外の電源には使用しない (日本国内専用) 過熱による火災など事故の原因になります。 ●本製品以外には使用しない 過熱による火災など事故の原因になります。 ●コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む 過熱による火災など事故の原因になります。 ●異常に気付いたら使用しない 異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあつたら、すぐに使用を中止して、お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。 ●コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない 過熱による火災など事故の原因になります。	<ul style="list-style-type: none">●コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする 断線、故障の原因になります。 ●コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない 断線、故障の原因になります。 ●分解や改造はしない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。 ●強い衝撃を与えない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。 ●濡れた手で触れない 感電によるけがの恐れがあります。 ●布などで覆わない 過熱による火災など事故の原因になります。 ●プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る 事故や火災の原因になります。 ●ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しない 変形、故障の原因になります。

	注意
<ul style="list-style-type: none">●長時間使用しないときは、コンセントから抜く 火災の原因になることがあります。安全のため、必ずコンセントから抜いてください。省エネルギーにご配慮ください。	<ul style="list-style-type: none">●足に引っ掛かりやすい場所にコードを引き回さない 故障や事故の原因になります。 ●通電中のACアダプターに長時間触れない 低温やけどの原因になることがあります。

■ 充電式電池について

本製品は、充電式電池（ニッケル水素電池）を内蔵しています。

	危険
<ul style="list-style-type: none">●電池の液が目に入ったときは目をこすらない すぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。 ●電池の液が濡れたときは素手で液を触らない 液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。電池が液漏れを起こした場合は、当社サービスセンターまでご相談ください。	<ul style="list-style-type: none">・万一なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。 ・皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。

	警告
<ul style="list-style-type: none">●火の中に入れてない、加熱、分解、改造しない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない 発熱、破損、発火の原因になります。	<ul style="list-style-type: none">●幼児の手の届く所に置かない 電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。窒息や内臓への障害の恐れがあります。 ●使い切った電池はすぐに取り出す 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

	注意
<ul style="list-style-type: none">●落下させたり強い衝撃を与えない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●以下の場所で使用、放置、保管しない ・直射日光の当たる場所、高温多湿の場所 ・炎天下の車内 ・ストーブなどの熱源の近く ●水に濡らさない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●機器を使用したあとは必ず電源を切る 液漏れの多くは、電源の切り忘れによる電池の消耗が原因です。	<ul style="list-style-type: none">●外装ラベルが剥がれた電池は使用しない、ラベルを剥がさない ショート状態になりやすく、液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●変形させたりハンダ付けしない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●機器を使用したあとは必ず電源を切る 液漏れの多くは、電源の切り忘れによる電池の消耗が原因です。

■ 充電式電池のリサイクルについて

充電式電池はリサイクルできます。不要になった電池は、端子（金属部分）にテープなどを貼り付けて絶縁してから充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、社団法人電池工業会ホームページhttp://www.baj.or.jpをご覧ください。

■ 使用上の注意

- ご使用の際は、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電子機器類の近くで使用しないでください。本製品や電子機器にノイズが入ることがあります。
- 本製品は長い間使用すると、紫外線（特に直射日光）や摩擦により変色することがあります。
- 炎天下の車内に放置しないでください。故障の原因になります。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 長い間ご使用にならない場合は、高温多湿を避け、風通しのよい場所に保管してください。
- 本製品は完全防水ではありません。表面に水滴などが残った場合は拭き取ってください。
- 出荷時、充電式電池は満充電されていません。初めて使用する際は、充電を行ってください。
- 初めて充電するときや長時間使用していないときは、充電式電池の持続時間が短くなることがあります。その際は、何回か充放電を繰り返すと通常の充電ができるようになります。
- 本製品を充電する際は、直射日光を避け、風通しの良い場所（目安として10～35℃）で充電してください。上記以外での充電は、電池の劣化を招き、連続使用時間が短くなる、充電ができなくなるなどの恐れがあります。
- 充電式電池を使い切らないうちに充電を繰り返すと、充電状態とは無関係に電池が消耗するメモリー効果と呼ばれる現象が起きます。電源インジケーターが消えるまで使い切ってから充電してください。それでも改善されない場合は、充電式電池の寿命の可能性があります。新しい充電式電池と交換してください。
- 充電式電池を保護するため、半年に一度は充電を行うようにしてください。放置しすぎると充電式電池の持続時間が短くなる、充電しなくなるなどの恐れがあります。
- 表面に水滴などが残った状態で充電しないでください。故障や火災の原因になります。
- 角形光デジタルケーブルは外部からの衝撃や、曲げに対して弱いためプラグを抜き差しするときなど取り扱いにご注意ください。

■ 防滴性能について

本製品の防滴性能はスピーカー本体のみの仕様です。送信機や付属のACアダプター、角形光デジタルケーブル、オーディオケーブルは防滴仕様ではありません。防滴仕様は、キッチンなどで水に濡れた場合の保護を目的で設計されています。（IPX2*相当）防水仕様ではないため水をかけたり、水に浸けると故障の原因になります。また、スピーカーのヘッドホン端子のキャップが閉まっていないと本体内部に水が入り、故障や電池の液漏れ、発熱の原因となります。

*スピーカーのみはJIS保護等級、IPX2相当。製品に対して15度の角度で上からかかる水滴に対して保護されていることを意味します。お風呂などの高温多湿の場所では使用できません。

■ お手入れのしかた

長くご使用いただくために各部のお手入れをお願いいたします。お手入れの際は、アルコール、シンナーなど溶剤類は使用しないでください。汚れたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

■ デジタルワイヤレス製品について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか第二世代小電力データ通信システム、移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで第二世代小電力データ通信システム、移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から別の移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の電源をお切りください。そのうえで、当社お客様相談窓口にご連絡頂き、混信回避のための処置についてお問い合わせください。
- その他、この機器から第二世代小電力データ通信システム、移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合やご不明な点がございますたら当社お客様相談窓口までお問い合わせください。

	この無線機器は2.4GHz 帯を使用します。変調方式としてその他の方式を採用し、与干渉距離は80m 以内、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能を表します。
--	--

- ・本製品は、各国の電波法の適合または認証を取得している国でのみ使用できます。販売国以外では使用できません。
- ・本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けております。無線局の免許は必要ありません。
- ・本製品は日本の電波法の技術基準に適合しています。貼り付けられているラベルはその証明ラベルです。 証明ラベルの貼り付けられた製品を総務省の許可なしに改造、または証明ラベルをはがして使用することはできません。これに違反すると法律により罰せられます。

■ ほかの機器との同時使用

Bluetooth搭載機器・無線LANを使用する機器・電子レンジなど、本製品と同一周波数帯（2.4GHz）の電波を使用する機器の影響によって音声が進切れるなど電波干渉による障害が発生することがあります。同様に、本製品の電波がこれらの機器に影響を与える可能性もあるため、下記の点に注意してください。

- － 本製品と同一周波数帯（2.4GHz）の電波を使用する機器を離して設置する。
- － 病院内では使用しない。

■ 通信距離について

本製品は送信機に接続した機器の音声をスピーカーへ無線伝送します。送信機から約30mの範囲でご使用いただけますが、障害物や他の電子機器との電波干渉の影響を受け、通信距離内でも音切れが発生する場合や、通信距離が短くなる場合があります。送信機は壁の近くなど電波を反射する場所、スチールラックの中など電波を放射しにくい場所を避けて設置してください。

<ul style="list-style-type: none">・到達可能な範囲を超えた場合や、スピーカーと送信機の間に電波を遮るものがある場合はスピーカーの電源／受信インジケーターが点滅します。 ・送信機が自動電源オフ機能の停止状態になった場合、スピーカーが到達可能な範囲であっても電源／受信インジケーターが点滅します。
--

■ 故障かなと思ったら

<ul style="list-style-type: none">■ 電源が入らない <ul style="list-style-type: none">・スピーカーを充電してください。 ・電池の寿命が考えられます。電池を交換してください。	<ul style="list-style-type: none">■ 音が進む <ul style="list-style-type: none">・スピーカーの音量を調整してください。
<ul style="list-style-type: none">■ 音が出ない／音が小さい <ul style="list-style-type: none">・本製品とテレビの電源を入れてください。 ・送信機とテレビの接続を確認してください。 ・スピーカーの音量を上げてください。 ・スピーカーにヘッドホンを接続している場合、取り外してください。	<ul style="list-style-type: none">■ 音が途切れる <ul style="list-style-type: none">・スピーカーの電源／受信インジケーターが点滅している場合、電波が届いていません。到達可能な範囲でご使用ください。 ・周囲に2.4GHz帯の電波を使用している機器があれば、離して設置してください。 ・送信機とテレビの接続を確認してください。
<ul style="list-style-type: none">■ 充電できない <ul style="list-style-type: none">・スピーカーの電源は切って充電してください。 ・テレビの音声出力設定が「PCM」に設定されているか確認してください。 ・ケーブルを根元まで確実に差し込んでいるかや、端子の向きを確認してください。	<ul style="list-style-type: none">■ 音が歪む <ul style="list-style-type: none">・スピーカーの音量を調整してください。
<ul style="list-style-type: none">■ オーディオケーブル接続時 <ul style="list-style-type: none">・テレビの音量を上げてください。	

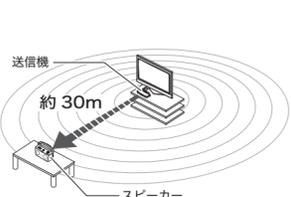
<p>オーディオケーブル接続時</p> <ul style="list-style-type: none">・テレビの音量を上げてください。			
<p>スピーカー</p> <p>型式 スピーカーユニット 最大出力</p>	<p>アンブ内蔵スピーカーシステム φ52mm×2 1.1W+1.1W（専用ニッケル水素電池を使用） 1.2W+1.2W（別売のACアダプターを使用） φ3.5mmステレオミニジャック DC3.6V（専用ニッケル水素電池を使用） DC6V（別売のACアダプターを使用）</p>	<p>送信機</p> <p>変調方式 送信周波数帯 到達距離 入力端子</p>	<p>その他の方式 2.4GHz帯 約30m 角形光デジタル端子（サンプリング周波数48kHzのPCMのみ） φ3.5mmステレオミニジャック DC6V（付属のACアダプターを使用）</p>
<p>出力端子 電源</p>	<p>φ3.5mmステレオミニジャック DC3.6V（専用ニッケル水素電池を使用） DC6V（別売のACアダプターを使用）</p>	<p>電源</p>	<p>外形寸法 質量</p>
<p>連続使用時間 外形寸法 質量</p>	<p>約16時間* H128×W1196×D84mm 約630g</p>		<p>角形光デジタルケーブル (1.5m / 角形光プラグ) オーディオケーブル (1.5m / ϕ3.5mm ステレオミニプラグ) 送信機用ACアダプター (AD-SA0610AA)</p>
<p>別売品</p>	<p>スピーカー用ACアダプター (AD-SA0610AA)</p>		

*使用条件により異なります。

改良などのため予告なく変更することがあります。

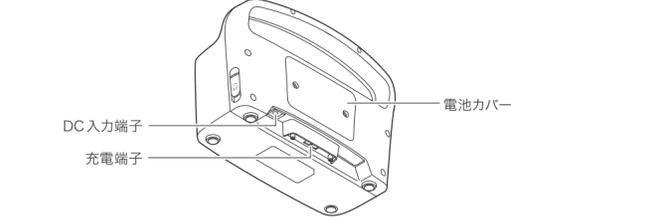
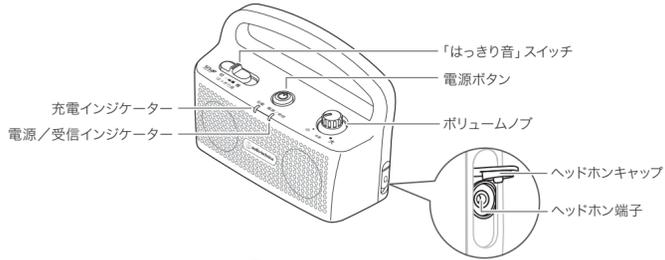
・記載されている会社名、製品名は各社の商標、または登録商標です。

<p>SRS Dialog Clarity</p>	<p>DTS特許については、http://patents.dts.comを参照してください。SRS Dialog Clarity技術はDTSライセンスینگ株式会社から許可を得て製品化されました。DTS、シンボル、および DTSとシンボルはともにDTS Inc.の登録商標です。©DTS Inc. All rights reserved.</p>
<p>お問い合わせ先（電話受付／平日9:00～17:30） 製品の仕様・使いかたや修理・部品の相談は、お買い上げのお店または当社窓口およびホームページのサポートまでお願いします。</p>	<p>修理について 本製品の修理をご依頼される際は、スピーカーと送信機の両方をお預けください。</p>
<p>●お客様相談窓口（製品の仕様・使いかた） ☎ 0120-773-417 （携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0211） FAX:042-739-9120 Eメール: support@audio-technica.co.jp</p>	
<p>●サービスセンター（修理・部品） ☎ 0120-887-416 （携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0212） FAX:042-739-9120 Eメール: servicecenter@audio-technica.co.jp</p>	
<p>●ホームページ（サポート） www.audio-technica.co.jp/aj/support/</p>	
<p>株式会社オーディオテクニカ 〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-4-6-1 www.audio-technica.co.jp ©2019 Audio-Technica Corporation</p>	<p>ver.1 2019.03.01 ver.2 2023.06.01</p>

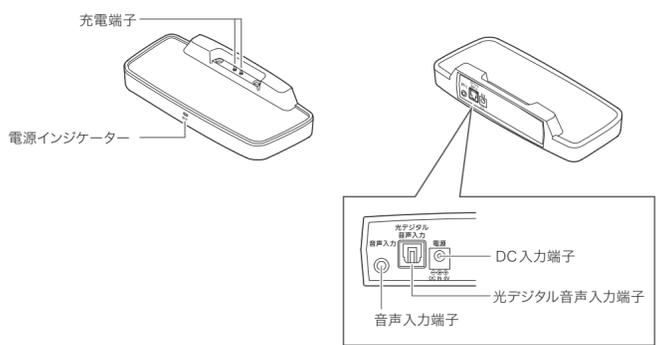


■ 各部の名称

■ スピーカー



■ 送信機



■ 送信機を準備する

送信機と付属のACアダプターを接続します。

- 付属のACアダプター以外接続しないでください。
- 電源が入り、電源インジケータが点灯します。電源インジケータの表示は下記状態を意味しています。

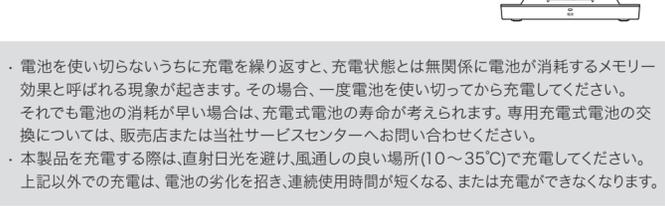
表示	状態
緑点灯	電源 入
オレンジ点灯	停止状態*
消灯	電源 切

*自動電源オフ時

■ 充電のしかた

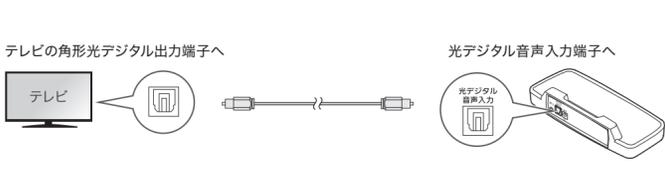
- 初めてご使用になる場合は、充電を行ってください。
- 充電式電池の残量が少なくなった場合、スピーカ-の電源/受信インジケータの色が変わります(緑→オレンジ→消灯)。色が変わった場合は充電してください。
- 充電する前にスピーカ-の電源が切れていることをご確認ください。電源が入っていると充電できません。
- スピーカ-の電池残量が空の状態から満充電になるまでに必要な充電時間は約5時間です(使用条件により異なります)。スピーカ-を初めて充電する際は、充電時間が短くなる場合があります。
- 充電完了した後に再度充電すると、満充電でも充電インジケータが点灯することがあります。

- 送信機とACアダプターを接続します。
- スピーカ-の電源を切り、送信機の上に置きます。
- 充電インジケータが赤色に点灯し、充電を開始します。
- 充電インジケータが消灯すると充電完了です。



■ テレビとの接続のしかた

付属の角形光デジタルケーブルで送信機とテレビを接続します。



- ケーブルからキャップを取り外してください。
- 端子の向きに注意してください。
- ケーブルは「カチッ」と鳴るまで押し込んでください。
- テレビとスピーカ-の両方から音声が出ます。
- テレビの音量を変えても、スピーカ-の音量は変わりません。
- 端子の位置はテレビによって異なります。テレビの取扱説明書を確認してください。
- オーディオケーブルを同時に接続しないでください。

■ スピーカ-から音が出ない場合

テレビの音声出力設定を「PCM」に設定します。

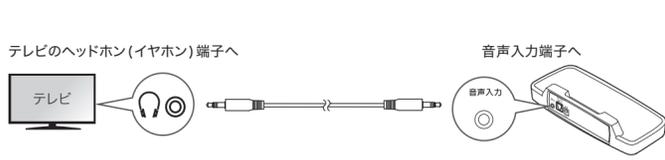
- 詳しくはテレビの取扱説明書をご確認ください。
- 主な設定方法は下表の通りです。(名称や手順は機種により異なることがあります。)

メーカー	設定手順
ソニー	設定 → 音質・音声設定 → デジタル音声出力設定 または 光音声出力設定 → PCM
シャープ	ホーム → 設定 → 機能切換 → 外部端子設定 → デジタル音声設定 → PCM
パナソニック	メニュー → 音声調整 → デジタル音声出力 → PCM
東芝	設定 → 音声設定 → 音声出力詳細設定 → デジタル音声出力 → PCM
三菱	音質 → 光音声/ARC出力設定 → 音質 → PCM
LG	設定メニュー → 音声 → 出力スピーカ-選択 → 本体スピーカ- + 外部スピーカ- → PCM

- テレビ付属のリモコンを使用して設定してください。
- 上記設定は一例です。設定方法が分からない場合は、ご使用のテレビメーカーに「デジタル音声出力を使う方法」をお問い合わせください。

■ テレビに角形光デジタル出力端子がない場合

付属のオーディオケーブルで送信機とテレビを接続します。



- テレビの音が消えて、スピーカ-だけから音声が出ます。
- テレビの音量を変えると、スピーカ-の音量も変わります。
- 端子の位置はテレビによって異なります。テレビの取扱説明書を確認してください。
- 角形光デジタルケーブルを同時に接続しないでください。

スピーカ-とテレビの両方から音を出す方法

「スピーカ-出力切換」など、テレビ側の音声をオン/オフできるテレビでは、スピーカ-とテレビの両方から音を出すこともできます。

- 詳しくはテレビの取扱説明書をご確認ください。
- 主な設定方法は下表の通りです。(名称や手順は機種により異なることがあります。)

メーカー	設定手順
ソニー	ホーム → 設定 → 音質・音声設定 → 外部出力モード → ラインアウト出力
シャープ	ホーム → 設定 → 機能切換 → 外部端子設定 → ヘッドホン → モード2
パナソニック	メニュー → 音声調整 → スピーカ-とイヤホン音声の同時出力 → する
東芝	設定 → ヘッドホン/音声出力設定 → ヘッドホン → 親切モード
三菱	メニュー → 設定 → 音声設定 → ヘッドホン設定 → 音声出力先手動切換 → 入 その後、消音 を数回押してスピーカ-とテレビから音声が出るように切り換える。
LG	ホーム → 設定 → 詳細設定 → 音声 → スピーカ-設定 → 本体スピーカ- + ヘッドホン

- テレビ付属のリモコンを使用して設定してください。
- テレビの機種によって、テレビから音声が出せない製品があります。
- 上記設定は一例です。設定方法が分からない場合は、ご使用のテレビメーカーに「ヘッドホンとテレビのスピーカ-から同時に音を出す方法」をお問い合わせください。

■ スピーカ-の使いかた

■ 電源入/切

電源ボタンを押して、電源を入/切します。

- 電源/受信インジケータが下記のように点灯します。

表示	状態
緑点灯	電源 入
オレンジ点灯	電池残量 少
点滅	送信機と未通信
消灯	電源 切

- テレビの電源を入れてから、スピーカ-の電源を入れてください。

■ 音量調整

ボリュームノブで音量を調整します。

- ノブを右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。
- スピーカ-の音量は音が歪まない範囲でご使用ください。

■ 「はっきり音」機能

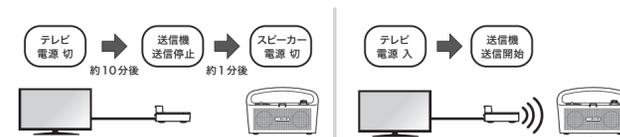
「はっきり音」スイッチを入れると、音声や台詞を明瞭に聞くことができます。2段階切り換えて効き具合を調整できます。

- 「はっきり音」スイッチを入れると音量によっては音が歪むことがあります。その場合、音量を調整し、音が歪まない範囲でご使用ください。

- 「はっきり音」の効果には個人差があります。
- 「はっきり音」はDTS Inc.が開発したSRS Dialog Clarity™技術を採用しています。SRS Dialog Clarity™は、人の声の領域の周波数を強調することにより、オーディオやサウンド再生音の中で台詞を明瞭に聞くことができます。

■ 自動電源オフ機能

約10分間テレビからの音声がなくと自動的にスピーカ-の電源が切れます。



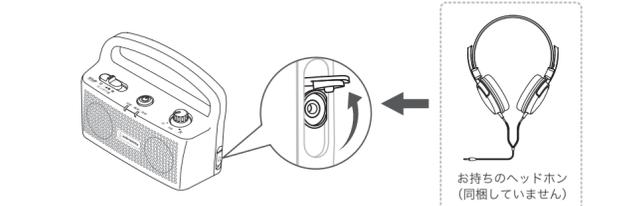
テレビから約10分間音声信号がない、もしくはテレビの音量が小さい状態が続くと自動的に送信機が電波の送信を停止します。(停止状態)停止状態では送信機の電源インジケータが緑色からオレンジ色に変わります。

送信機が停止状態になってから約1分後にスピーカ-の電源が切れ、電源/受信インジケータが消灯します。

- テレビの音量が小さいと、テレビの電源が入っているにもかかわらず、自動電源オフ機能が働いてしまう場合があります。
- テレビによっては自動電源オフ機能が動作しないことがあります。

■ ヘッドホンを使用する

スピーカ-のヘッドホン端子をお持ちのヘッドホンと接続すると、テレビの音声をヘッドホンで聞くことができます。

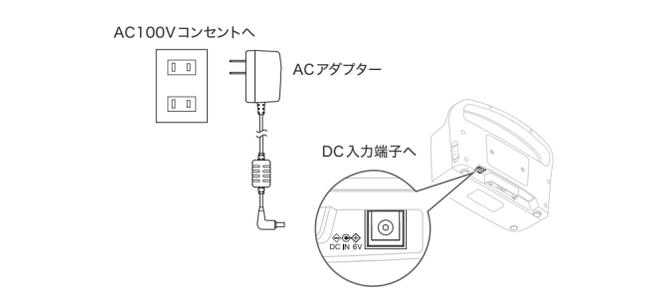


- ヘッドホンと接続した場合、スピーカ-からは音声が出ません。
- モノラルヘッドホンと接続した場合、左側の音声のみ出ます。

■ ACアダプター(別売)でスピーカ-を使用する場合

別売のスピーカ-用ACアダプター(AD-SA0610AA)を使用して、電池残量を気にすることなくスピーカ-を使用することができます。

- 別売のACアダプター以外接続しないでください。



- スピーカ-の電源を入れると、充電インジケータは点灯しません。そのままスピーカ-を使用しても、電池を消耗せず使用することができます。
- スピーカ-の電源が切れていると、充電インジケータが赤色に点灯し、充電を開始します。充電インジケータが消灯すると充電完了です。
- ACアダプターを接続したままでも、過充電にはなりません。
- スピーカ-の電池残量が空の状態から満充電になるまでに必要な充電時間は約5時間です(使用条件により異なります)。スピーカ-を初めて充電する際は、充電時間が短くなる場合があります。

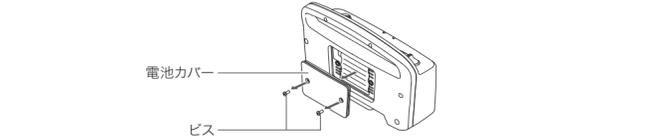
- ご購入求めいただく際は販売店、または当社サービスセンターにお問い合わせください。

■ 充電式電池(内蔵)の交換について

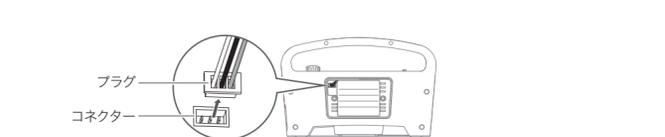
充電しても電池の消耗が早くなった場合は、充電式電池の寿命が考えられます。充電式電池は、販売店または当社サービスセンターでご注文いただけます。

- 別売のスピーカ-用ACアダプター(AD-SA0610AA)を使用している場合は、必ずACアダプターを抜いてから作業してください。

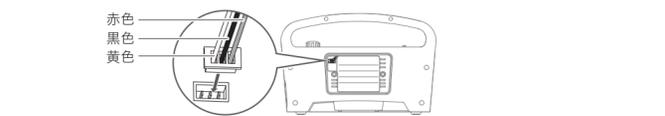
- 市販のプラスドライバーでスピーカ-背面にあるビスを2本取り外し、電池カバーを取り外してください。
 - ビスを無くさないように注意してください。



- スピーカ-から充電式電池を取り外し、プラグをコネクタ-から引き抜いてください。



- 新しい充電式電池のプラグをコネクタ-にしっかりと差し込み、充電式電池をスピーカ-に入れてください。
 - プラグのコード色に注意してください。



- 電池カバーを取り付けて、ビスを閉めてください。
 - コードを電池カバーで挟み込まないように注意してください。

- 万一、本製品の操作ができなくなった場合には、充電式電池のプラグを抜き挿しすることで復帰します。充電式電池のプラグの抜き挿し手順は、上記をご確認ください。